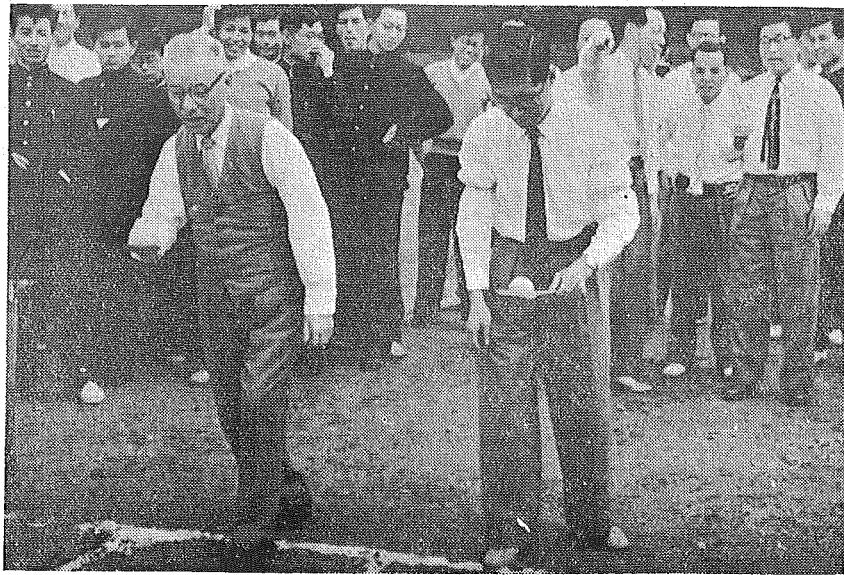


# 洛友会々報

京都市左京区吉田  
京都大学工学部  
電気科教室内  
洛友会

懇話会の運動会が開始されて、教室になごやかな空気が生れ、体育リクリエーションを兼ねて結構なことである。運動会については「教室だより」に出ている。見て下さい。そして洛友会の会員も、これからは大いに応援して一層の懐しさと、床しさをかもし出したものである。



## 教室だより

### 一、はじめに

電気電子両教室では新秋と共に講義に、研究に、将又運動に大いに活躍するべく教官・学生一同張り切っております。特に本年度は電子工学科におきましては最初の四回生が出来、初めて完全な形を整えました。来年度は更に電子工学科の大学院を開設するべく着々と準備を進めております。

来春には電子工学科の最初の卒業生を社会に送り出すわけであり、現在電気・電子両教室とも好景気の余波を受けて多数の卒業予定者の採用申込みを受けております。洛友会の先輩各位の今後一層の御支持と御援助をお願いする次第であります。

尚、電子工学教室の前田憲一教授におかれましては、国際地球観測年最初の国際会議出席のため約二カ月の予定で八月初旬渡米されました。又、同教室の清野武教授はフルブライト交換教授として、米国マサチューセッツ工科大学に約一年留学されることになり、八月下旬渡米されました。御住所は左の通りです。

Dr. Takeshi KIYONO  
c/o Department of Geology  
and Geophysics,  
Massachusetts Institute  
of Technology,  
Cambridge 39, Mass., U.S.A.

尚又、大学院博士課程の飯塚啓吾君は、ハーバード大学の奨学金を得て一カ年の予定で清野教授と同じ米川丸で八月下旬渡米されました。清野教授及び飯塚君の御活躍と御健康

をお祈りする次第であります。

次に二、三の行事について、遅くればせながら簡単に御報告申し上げます。

### 二、研究談話会

暫らく休んでおりました研究談話会が四月から再開されました。今回はこの会を永続的、而も定期的なものにし、研究意欲を高める雰囲気を作るために関係者の非常な御尽力で二、三の改革がなされました。

即ち会は両教室の関係教官と大学院博士課程の学生よりなり、来聴は自由になつております。講演は約一時間、講演後の自由討論に時間を充て取るようにし、講演には刷上り十頁程度の予稿が用意されます。又この会は大体隔週に開催されることになつており、今後約一カ年の予定表が出来て関係方面にお配り致しました。

既に十数回研究談話会が行われましたが、学内関係者はもとより、阪大・大阪市大・立命大その他他社・研究所等から多数の来聴者があり、盛會を極めております。洛友会の先輩各位におかれましても多数御来会下さるようお願いすると共に、この研究談話会が益々盛んになるよう今後一層の御支援をお願いする次第であります。

### 三、懇話会大運動会

電気・電子両教室懇話会では春季大会、新入会員歓迎大運動会を、新緑薫る五月廿六日、京都御所饗宴場広場において、洛友会後援の下に開催致しました。新入一回生が春季大

会に参加するのは本年が初めてであり、諸先輩の参加もあつて会する者実に二百数十名の多数に上りました。

大会は先ず本年度会長、林千博教授の挨拶及び先年度の会計報告があつて後、呼び物のスプリンターから運動会の幕を切つて落しました。その後、多数の賞品の山を前にして、朝食代りにとパン喰い競走に出場者が殺倒したり、煙草の火付け競走では頬ペタに火を付けたりする珍プレーが相次いで繰りひろげられ、午後二時和氣麗々裡に運動会を終りました。

総合優勝は四回生・職員大学院合同チームはからくも二位確保、三位との差は実在一点。三回生のくやしがること。尚、四回生は昨年三回生のときに引続いての連続優勝でした。

その後二時三十分より同じく京都御所コートにおいて、テニス大会を行い、デビスカップ東洋ゾーン戦も顔負けの盛んな声援、野次の中で熱戦が次々と展開され、これ又職員チームは優勝戦で四回生に惜敗しました。最後に林会長より四回生に優勝杯が贈られて、テニス大会の幕を閉じました。

この日は早朝、多少心配された天候もすつかり晴れ上り、強い夏の日射しの下で職員・学生・諸先輩が相寄つて実に楽しい有意義な一日を過ごしたことでした。

尚、近く電気・電子教室の精鋭を率いて、応用科学研究所に対し、テニスの挑戦を行うつもりであります。又、先輩各位の賞品御持参の上での御挑戦に對しましては随時応戦致す所存でありますから、我れと思わん方は同好相寄つて教室宛にお申込み頂くようお待ち致しております。

中部支部総会

六月廿三日(日)、うす日の快晴に恵まれて、会場の三河三谷、中部電力の碧水荘には、久しぶりの中部支部の会合として、新顔古顔多数が馳せ参じた。

この日は京都から加藤先生・山村幹事の御出席を得て、支部大会として稀れにみる盛会であった。

先ず、清水支部長の挨拶。私が色々の役職についていて、会

の事が気にかかりつゝも思うに任せず、昨年の洛友会総会以来、一度も会合を持つことが出来なかつた。今回中部電力のお世話で、静岡と名古屋の中間で支部総会を開くことが出来たことを嬉しく思う。

次いで、加藤先生より挨拶あり、鳥養先生が来られる処だが、目下東南アジア方面の視察に行つておられるので私が代つて来た。鳥養先生は非常に元気で出発された。

私は今年の十月廿八日の誕生日に停年退職することになつてゐる。思えば長い間勤めて、感慨無量である。これも皆さんのお蔭と厚く感謝している。

私は何もしていないが、たゞ一つ申し上げることがある。それは電子工学の誕生である。

戦後、アメリカに行き電力・通信・電子工学を見て来た。これがきっかけとなつて、日本でも一つ旧制大学で電子工学が出来た。これには色々の困難があつたが、東京・東北・阪大の航空工学の誕生も与つて力があつた。現在の航空機は半分はエレクトロニクスを使つてゐるからである。

私は京大の教官陣営が非常に良いといふことを嬉しく思つてゐる。阿部・松田の両先生、それに私が退官しても良い先生が残つており、少しも心配はいらない。

次に山村幹事より、昨年の洛友会総会を名古屋で開いた節、支部役員と会員各位に多大の御尽力をかけた感謝の言葉と、本部の状況報告があつた。

最後に、竹上幹事より卅一年度の事務並に会計報告があつて、懇親会に移る。

この日は、中部電力大杉幹事のお骨折りで二人前以上の新しい鮮魚のご馳走があり、眼の前は料理の山、どれから手をつけてよいやら。

久しぶりの会合として話は尽きなかつたが、次期会合は岐阜の庄である。各務米次郎氏の肝煎りで長良川の鵜飼を兼ねて会合することを約して散会、時に午後三時。(川村進記)

当日の出席者は

- |            |            |
|------------|------------|
| 加藤 先生      | 山村 幹事      |
| 清水 勤二(大12) | 川島 次郎(大4)  |
| 各務米次郎(大7)  | 山田 次郎(大11) |
| 庄野 誠一(大12) | 村瀬 邦朗(大12) |
| 本多 静雄(大13) | 河津吉兵衛(大13) |
| 竹安 保(大14)  | 竹上 武雄(大4)  |
| 小池 恒久(大3)  | 古田 久一(大6)  |
| 酒井 長武(大8)  | 高尾 磐夫(大8)  |
| 河村 泰雄(大9)  | 大杉 幹(大12)  |
| 川村 進(大12)  | 池田 豊(大16)  |
| 高井 収(大19)  | 伊藤 定昌(大20) |
| 横井 公雄(大20) | 水野 勝巳(大20) |
| 佐藤 彭洋(大22) | 外山 敏夫(大22) |
| 荻野 喜明(大23) | 前原 恒久(大28) |
| 立山 尚武(大29) | 吹沢 直温(大30) |
| 柴田 善郎(大31) |            |

中部支部例会

八月卅一日(土)、長良川の北側広場に集合、万才丸という縁起の良い船に乗つて六時出発、長良川の清流を遡上ること約二十分、目的地に着する。

こゝで、清水支部長の簡単な挨拶に次いで、加藤先生は、鳥養先生は目、釜井沢に行つてお

られて出席出来なかつた。私は鵜飼見物は初めてである。各務氏を始め地元の方々のお骨折りを感謝する。今日何か記念講演をという話であつたか、これは後日に譲りたい。一緒に柳先生の奥様が行けないうから宜しくといふことであつた。

直ちに宴会に移る。宴酣となつて待望の鵜飼船が、かざり火を赤々と燃やしつゝ続々と下つて来る。スワとばかりに、これにつゞ

き、左右するめざましい鵜の活動ぶりに眼をみはる。最後に鵜飼船の観艦式(いかた流し)の披露がある。

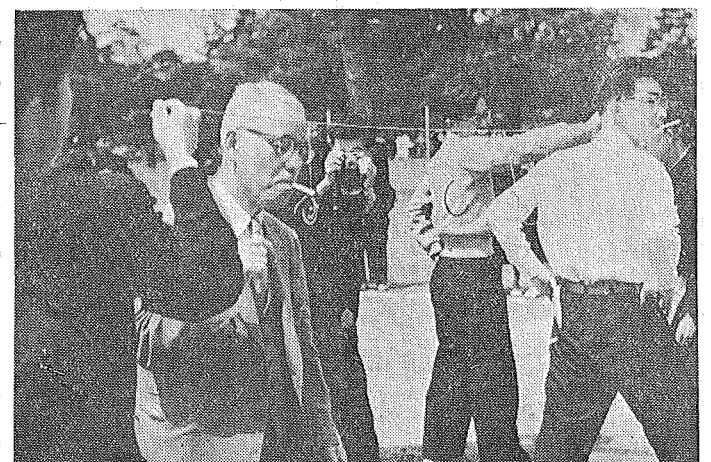
やがて、浦島太郎の恰好よろしき年輩の鵜匠が船に乗り込んで来て、鵜についての説明を聴く。曰く

毎晩行方不明では鵜は余り取れないから上流で取つて来る。鵜は野生のものを買取つて約二カ月馴らすと、おとなしくなる。

古參の鵜と一所に働かせるが、一人前になるのに三年かかる。三年といふのは体が丈夫になる期間である。鵜は長生きのものになると廿五、六年も働らく。現に三十羽持つているが、弱いものと強いものがある。弱いものは三年で死ぬものがある。

使う場合は、その健康状態を見て使うが、その判定は鵜の下がゴムのようにかかひるので判る。

十二羽で一組とし、頸と腹を紐でしばつて使い、呑み込んだ鵜を吐かせる。一羽で大小取りませ鵜を二〇



○匂も呑み込む。これだけ呑み込むと、活動が鈍くなるので吐かせる。

呑むときは必ず鵜の頭から呑み込む。その間に鵜の小さいのは呑み込んでしまつて、働いてゐる間に腹がふくれる。

と、言いつゝ、眼の前に鵜を置くと、しばらくは鵜は、立て続けに鵜を頭から呑み込む。これで二〇〇匂は呑み込んでゐると、言いながら左手を頸に廻せば、呑んだ鵜をそつくり、そのまゝ、眼の前に吐き出させた。

話し終つて、船は元の岸に返され、かくて洛友会の萬歳を三唱して散会した。時に午後九時。(川村進記)

当日の出席者は 加藤先生 林(重)先生 大谷先生 山村 幹事

京の水

松田長三郎

最近、歐洲の旅行から帰国せられた或る医学部教授の話に、スエーデンで、ひどい下痢にかかり、いつまでも治らず、大変困つた。これは多分硬水のためかと思うとのことであつたが、自分も往年滞歐の際、水に要心して、パリではエヴィアンを飲み、ロシアでは毎朝、ビールで口を潤したことを思い出す。旅人は飲み水に特に注意を要する。

それにつけても、清らかな、おいしい水を豊富に恵まれている京都は、何んと言つても仕合せである。

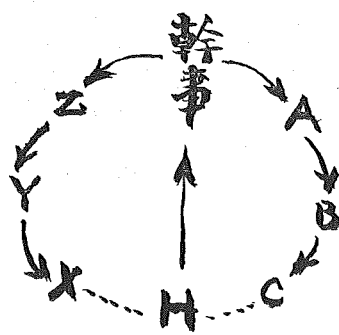
Handwritten signatures and names in various directions, including '松田長三郎' and others, likely related to the 'Water of Kyoto' article.

昔から京都は山紫水明の都として、その景観の美は謳われて来ているが、たまに旅行などをして、京都に帰つて来ると、やわらかな美味い水の味が、一入嬉しい。原水爆実験のために、今は世界中、何処へ行つても大なり小なり、最早や造物主のつくられた、きれいな水や空気が無くなりつつあることは悲しいことである。

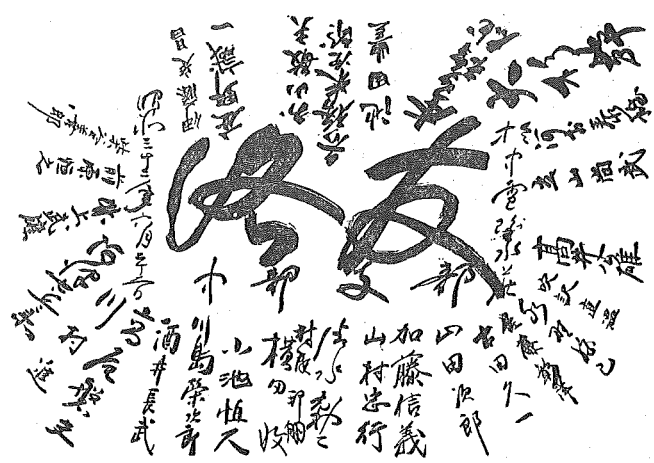
### 連絡楽環法

昭四 久野 清

世の中には随分色々な会合があるものだ。私のような若僧でも、ちよつと数えてみると一〇〇件ほどの会議に關係している。同日同時刻に二ツ三ツの会合がブツかると、ホツとする



位である。ところが、その上に中学・高校・大学・趣味・同僚等と個人關係の集りも仲々馬鹿にならない。ところが後者の連絡が又厄介である。印刷するほどでなし、電話では仲々相手がつまらぬ。幹事役一人ではどうしても完璧を期すことが出来ず、後で平あやまりという次第。骨折つて叱



られ役。誰しもやらなくならない訳である。そこで考えたのが「楽」をして完全な「連絡」をしようという訳で、称して「連絡楽環法」という。幹事は右左の二人(A・Z)だけに用件を伝える。A及Zは予め定められたB及Yに伝える。B及Yは更にC及Xに伝える。以下同じ。因においてHがAと同じ、Z廻りと両方から用件を伝えられたとすると、Hはその結果をまとめて幹事に結果を報告するという仕組み。途中でなまけている者があつたり、Xになつたり

することもあろう。その他こまかい注意まで記すには及ぶまい。昭四会でもやつてみる事とする。皆さん如何。

### 中村良雄君の死を悼む

昭四 久野 清

八月六日朝、京都からの電話で中村良雄君死去の報に接した。我々昭四会の中では、最も純真で、清く美しい一生を送られた方だと思ふ。大学時代には青柳先生に愛され、御所の清掃その他の社会奉仕には率先して参加されていた。同君らしいエピソードを一つ御照会すると、大学を出て、京都市電に就職直後のこと、毎日出勤しても何んの仕事も与えられないので、これではもつたいない、という訳で、毎朝廊下の清掃をやつた。ところが、それでは困ると給仕から苦情が出た由。呉で海軍工廠にいた頃、同君の魚雷の制御に関する研究は無二の研究として上官から高く評価され、偉大なる功績を挙げた由。その後、大学に教鞭をとるに及んでも、右研究の継続として、今日言うところのオートメーションを手がけられたが、学校では予算が不足で、実験が出来ないことを絶えず私共に訴えておられた。然し学位論文も今となつては無駄となつたことは、同君も心残りなしたことであらう。いつも洛友会の名簿で物故者欄を見る度に、次表に見るように

昭五(12人)	昭六(10人)	昭七(9人)
昭二(14人)	昭三(15人)	昭四(7人)
昭三(13人)	昭四(9人)	昭五(8人)

昭四組が最も健在であると自負していたが、こゝで一人欠けたことは何よりも残念である。殊に同君のように、清く明るい人物を失つたことは、昭四会の清明レベルを著しく低下することであらう。また三中・三高・京大と十一年間生活を共にした私にとつては妻子を失つたほどの悲しみである。

### 信友会例会

日本電池の間崎常務が、専務に昇格されて東京駐在となつた。もちろん京都の本社へも来られるのだが、表面上、家族とも東京へ移住。永年にわたり、会の世話をして、パトロナイズされただけに、我々は淋しさを覚ゆるのであつた。八月十八日、例会を兼ねて間崎君の欲送会が清風荘で開催された。

### 昭和十八年卒業クラス会

去る六月一日、昭和十八年卒業生のうち関西地区在住者のクラス会を氏原君のお骨折りにより大阪駅前「北京」にて開催した。今回は近藤君の教授昇進祝い、佐野君の渡米の欲送を兼ねての会合と

いには何んの力もなかつた。山村君の世話で大和からご馳走が運ばれた。そして盃は廻つた。誠に間崎君の欲送会にふさわしい良い会合であつた。



写真(前列向つて右より) 上林一雄 間崎竜夫 保寿康象 小杉雄二 (後列向つて右より) 工藤寿男 加藤信義 阿部 清 松田長三郎 岡添柳吉 宮崎佐加枝 光野重威 山田忠行

